

質問回答

令和4年1月27日

項目	内 容	回 答
1	<p>ボランティア活動者への年齢制限はありますか。 高齢者でもお手伝いできますか。</p>	<p>ボランティア活動者の年齢制限はありません。 災害時のボランティア活動は、被災現場での「力仕事」というイメージが強くあると思いますが、それ以外にも、様々な支援活動があります。 例) 傾聴、チラシのポスティング、災害VC運営（受付など）</p>
2	<p>ボランティアセンターのスタッフとして、社協の職員ではなく、ボランティアが関わっていましたか。 もし、ボランティアが関わっていたのなら、それは、どのような人たちですか。 災害の長期ボランティア、市ボ連 等</p>	<p>ボランティアセンターの運営については、社協職員以外の多くのボランティアの方々に協力いただきました。 本会の基本的な考え方は、協働型の災害ボランティアセンターを運営するというにしております。 運営に協力いただいた方（ボランティアのみ／過去も含む）は、以下のとおりです。 <u>市ボラ連、防災士、企業、大学、NPO、</u></p>
3	<p>活動者や依頼者でボランティア活動後のコロナ発症や体調不良などはありましたか。 その場合は、どのような配慮をされましたか。 Aさん宅で活動したボランティア全員の連絡先などを一定期間保管等。</p>	<p>幸いにも、コロナ感染者等は1件もございませんでした。 ただし、事前に「コロナ陽性者等が出た場合の対応フロー図」等を整備しておりましたので、もし、そのような事態になった場合は、フロー図等に準じて対応することになります。 以前、コロナ関連ではありませんが、熱中症になられた活動者がおられ、その際は、運営スタッフが、近くの病院に連れて行ったことはあります。もちろん、近くに病院等がない場合は、救急車をお願いすることになるかと思えます。 また、ボランティア活動者の名簿は、一定期間保存することとしています。</p>

項目	内 容	回 答
4	<p>ボランティアは事前登録のみで、当日飛び込みのボランティアは、お断りしていたということですが、クレームはなかったのでしょうか。PC等が苦手な人はどのように活動希望を伝えればいいのかのでしょうか。</p>	<p>お断りした方の中に、意見を言われる方はいましたが、クレームまではありませんでした。</p> <p>丁寧かつ親切な対応を心がければ、ご理解いただけるのではないのでしょうか。</p> <p>また、インターネット、パソコンが使えない方に対しては、電話で対応しておりました。ほとんどの方が、「ボランティアをしたいけど、インターネットが使えないのでどうしたら良いか」など、事前に電話でお問合せいただいております。</p> <p>また、タイミングよく社協広報誌の発行時期でしたので、紙媒体でも周知したところです。</p>
5	<p>ボランティアの開設期間は、どの程度でしたか。</p>	<p>今回は、8月17日から9月18日までの1か月間でした。</p> <p>過去も、1か月程度の開設期間となっています。</p>
6	<p>被災件数に比して、依頼件数が少ないと感じました。これは、コロナによる依頼控えみたいなことでしょうか。それとも、コロナ前の被災でも同様の比率なのでしょうか。</p> <p>また、社協以外でもボランティアセンターのような活動をしている組織があったのでしょうか。</p>	<p>過去も含めてニーズ依頼者の状況を分析してみると、独居高齢者や高齢者夫婦のみ世帯が多いこと、近くに親族等がないこと、軽トラックを持っていないこと、地域全体が被災しているため、地域での支援が難しいこと、これらの条件に当てはまる方からの依頼がほとんどです。</p> <p>したがって、上記以外の方、例えば、若い世代で軽トラックを持ってある方や親族等の支援がある方など、自分たちで片付けができる方や周りの支援を受けられる方は、ボランティアセンターへは依頼されていないと考えられます。</p> <p>このようなことが、被害件数に対して依頼件数が少ない要因だと考えております。</p>

7	<p>活動者へのオリエンテーションなどで、コロナへの配慮はどの程度行われましたか。例えば、防護服のようなものをボランティアが持参して活動しなければならないのでしょうか。昼食や活動休憩中の密を避ける行動のアナウンスなど。</p>	<p>オリエンテーションについては、活動上の注意、留意点等について、動画や資料をホームページに掲載し、事前に確認していただくようお願いをしておりました。</p> <p>具体的な内容については、別添資料を確認下さい。</p> <p>また、動画については、本会ホームページにアップしておりますので、下記URLよりご確認いただければ幸いです。</p> <p>http://www.heartful-volunteer.net/themed/syakyou/img/kurumesisaiboraoren2.mp4</p>
8	<p>防災士として自主防災ネットワークというグループ立ち上げ活動しています。住民としては、まず自らの命を守る行動、その次に避難所の運営と考えています。ボランティアセンターと避難所との関係について教えていただければと思います。</p> <p>久留米市のケースでは、ボランティアセンターから避難所へボランティアの派遣などはありましたか。</p> <p>どのようなケースでボランティアセンターが避難所運営を支援していただけるのでしょうか。</p>	<p>本市では、避難所へボランティアを派遣したケースは、過去も含めてありません。</p> <p>理由としては、本市の水害の場合、浸水して水が引けば、避難されてある方は、自宅に戻られるからです。自宅が浸水して生活ができなかったとしても、一時的に公営の住宅等に避難されるため、避難所に戻れる方はほとんどいません。そのため、ボランティアが必要なニーズはないため、派遣等を行ったケースはありません。</p> <p>ボランティアセンターが、避難所運営にかかわるケースとしては、私の経験上、東日本大震災、熊本地震規模の災害が発生し、長期間に渡って、避難所運営が必要な場合だと思います。</p> <p>熊本地震の際は、ボランティアセンターからボランティアの方々を派遣し、避難所の清掃活動等（避難所の外の活動）を行ってありました。</p> <p>避難所とはいえ、被災された方々のプライベートな空間になりますので、避難所の中での一般ボランティアの活動等については、行政との調整が必要になるかと思っています。</p>